

第5回学校関係者評価委員会議事録

日時：令和6年6月14日（金） 15時30分～16時20分
場所：愛知工業大学情報電子専門学校 1階会議室
出席者：委員長 川合 晃司（地元関係者：豊田市役所）
副委員長 中山 智明（高等学校関係者：愛知工業大学名電高等学校）
委員 玉村 宏（地元企業関係者：鬼頭工業株式会社）
委員 日比野 聡（卒業生）
専門学校 飯吉 僚 校長、山田 一敏 特任教授、林 敬二郎 事務長、中野 正博 課長補佐

1. はじめに

冒頭、飯吉校長による挨拶があり、この学校関係者評価委員会が高等教育機関の修学支援制度に基づくものであること、委員の皆様のご意見を参考にして本校の運営に役立てていることなど、この委員会実施についての意義が述べられた。また、本校は、現在2年生のみになり、人数も定員の6割の60名程度で、寂しい雰囲気にはなったが、我々としては、今までと変わりなく学生指導をしていきたいと、本校の現状について話があった。

また、参加者の自己紹介は割愛されたが、初参加となる本校山田特任教授が紹介され、挨拶を行った。

2. 開会

川合委員長が議長となり、第5回学校関係者評価委員会の議題についての進行が行われた。

（学校関係者評価委員会規程第7条に規定する委員の過半数の出席があるため、委員会は成立。）

3. 自己点検評価（2023年度）の報告、説明、質疑応答

議長より2023年度の自己点検評価について、報告を求められ、専門学校林事務長が自己点検評価報告書に基づき、報告、説明を行った。

この報告、説明に対し、特に委員からの質問・意見はなかった。

4. 委員による評価

自己点検評価に対し、評価項目ごとに、以下のとおり評価がなされた。

・項目1（教育理念・目的・人材育成像）、項目2（学校運営）

＜評価結果＞ 教育理念・目的・人材育成像は明文化され、周知もされており、事業計画に沿った学校運営がなされていると評価する。また、学務システムを更新し、業務の効率化が図られていると評価します。

・項目3（教育活動）、項目4（学修成果）

＜評価結果＞ 学科再編後のカリキュラムは、授業の評価アンケートによる授業の質の向上や資格取得を見据えたカリキュラムを構成するなどの取り組みから、適切であると評価します。

また、就職率も昨年度から下がったとは言え、企業説明会を自校で開催するなどの取り組みにより、高水準を維持している。資格取得に対する指導も目標を立てながら適切に行われていると評価します。

・項目5（学生支援）、項目6（教育環境）

＜評価結果＞ 就職指導、大学編入について、関連する講義科目や特別講座を開講し、学生への個別支援など充分に行われていると評価します。

高等教育の修学支援制度は充分に活用されており、学生の経済的な支援体制も整備されて

いると評価します。

また、学生の教育環境も豊富なパソコンの活用など十分に整備され、防災訓練や帰宅困難者向けの備蓄など防災に対する体制もしっかり対応されていると評価します。

・項目7（学生の受け入れ募集）

＜評価結果＞ このことについては、募集を停止されたということで評価の対象外とします。

・項目8（財務）、項目9（法令等の遵守）、項目10（社会貢献・地域貢献）、項目11（新型コロナウイルス（COVID-19）感染症への対応）

＜評価結果＞ 財務に関して、経常費の予算管理の配付額と執行額に大きな差異が生じておりますが、予算計画後に募集停止が決定したということで止むを得なかったと思います。

法令遵守に関しては、学則変更について愛知県私学振興室に相談の上、対応しているということで適切に行われていると評価します。

社会・地域貢献では、令和3年度から実施の製造技術者向け講習を継続して開講されていることを評価します。

新型コロナウイルス感染症対応についても、状況に応じた対応がなされており、問題ないかと思えます。

・項目12（募集停止）

＜評価結果＞ 募集停止に関しては、少子化、経営状況、雇用などの諸事情により判断されたことであり、残念ではありますが、やむを得なかったと思われます。今後は、閉鎖に向けて最後まで誠意をもって学生に対応し、閉鎖準備をしっかりしていただければと思います。

5. その他

事務局から、この学校関係者評価委員会について、高等教育機関の修学支援制度の適用が受けられるのが今年度末までとなり、次年度から対象から外れるため、県に対し、辞退届を提出した旨の報告があり、今回は最後になるとの連絡があった。

6. 総評・閉会

議長より、本日の委員会の議題に対する意見・評価をいただきことへのお礼が述べられ、専門学校への激励をいただいた後、第5回学校関係者評価委員会の閉会が宣言された。

以上